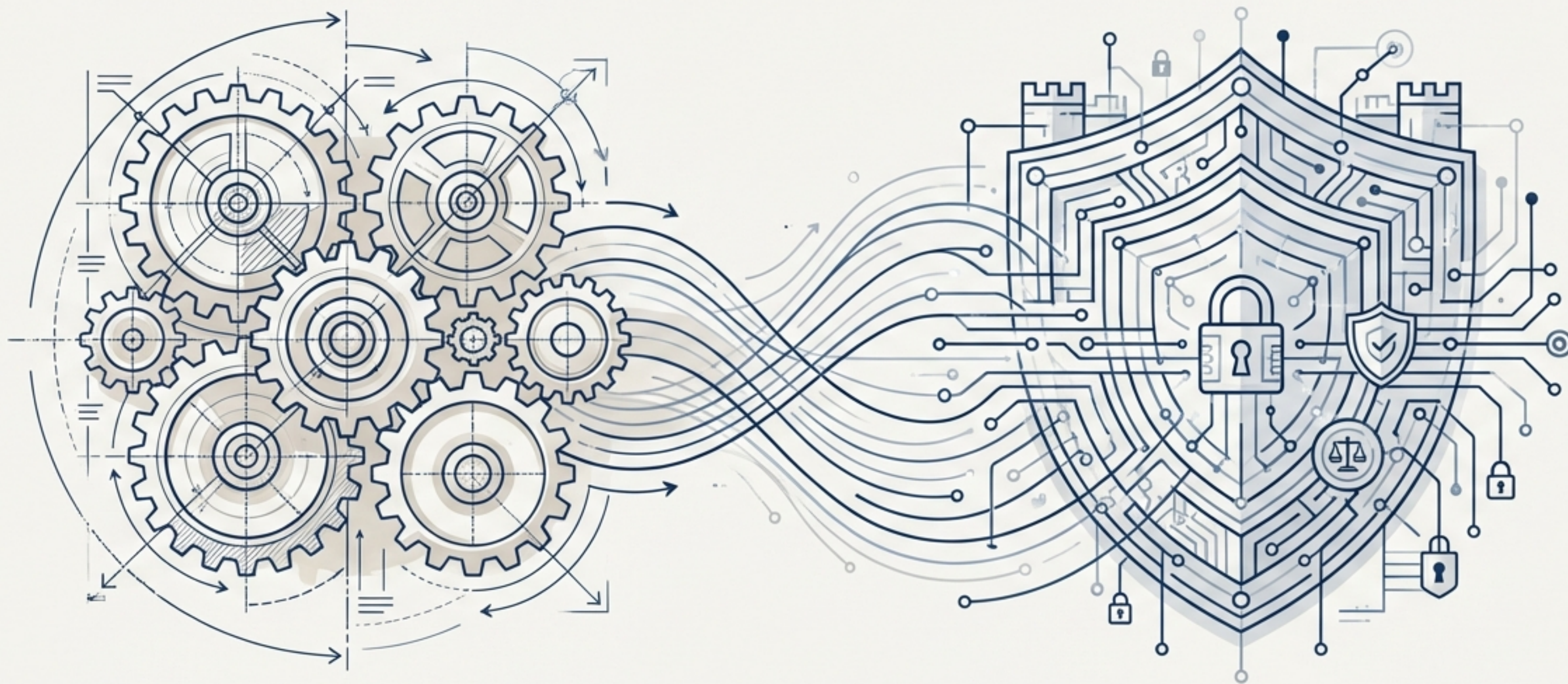


# AI時代の企業競争力：「発明力」から「権利化力」へのシフト

Corporate Competitiveness in the AI Era: The Shift from 'Invention Power' to 'Right-acquisition Power'



# AIが変える競争のルールと、新たな勝利への道筋

1.



**現状：かつての競争優位**

「発明力」が絶対的な強みだった  
時代を振り返る

2.



**課題：AIがもたらす構造変化**

発明のコモディティ化と「技術コ  
ンタミネーション」のリスクを直  
視する

3.



**解決策：新時代の競争戦略**

「権利化力」を構築し、持続的な  
優位性を確保する具体的な方法論

# かつて、企業の競争力は「発明力」で決まっていた

**「発明力」の定義：「より優れた技術をより早く生み出すこと」**

このモデルでは、他社よりも早く革新的な発明を生み出すことが、企業業中の競争優位を決定づけてきた。



R&D



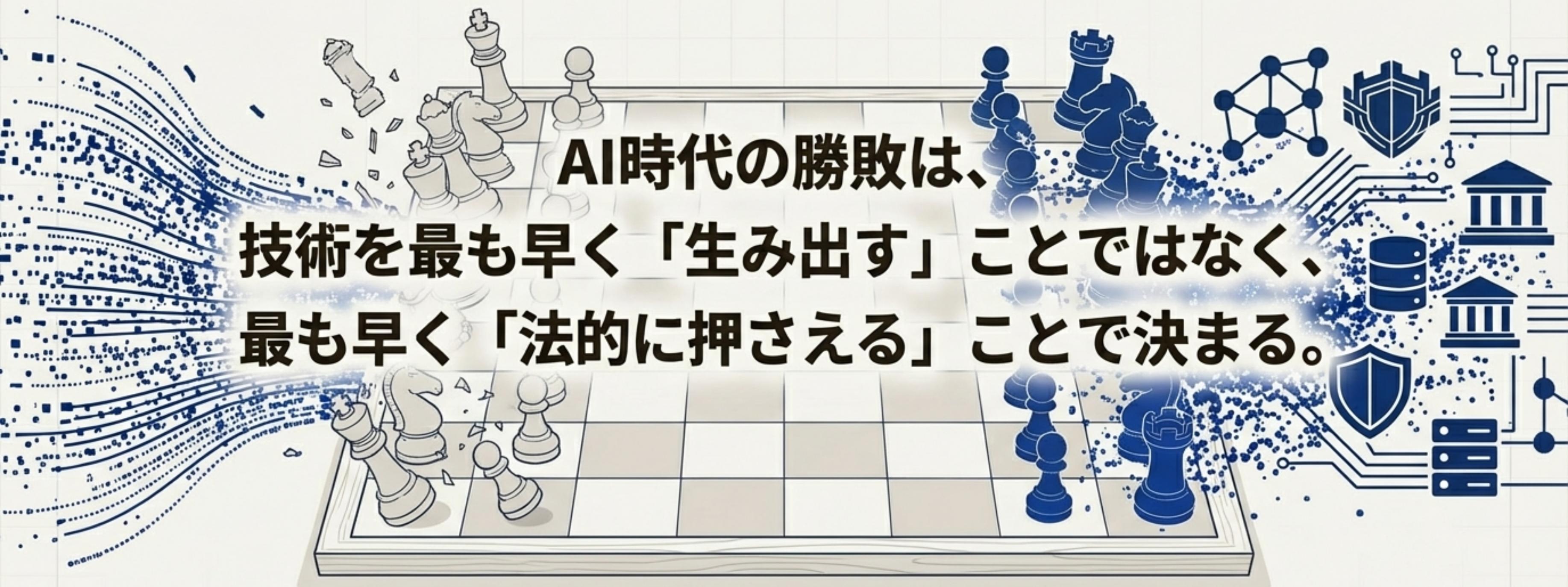
SPEED



INNOVATION

しかし、AIが競争のルールを根底から覆した

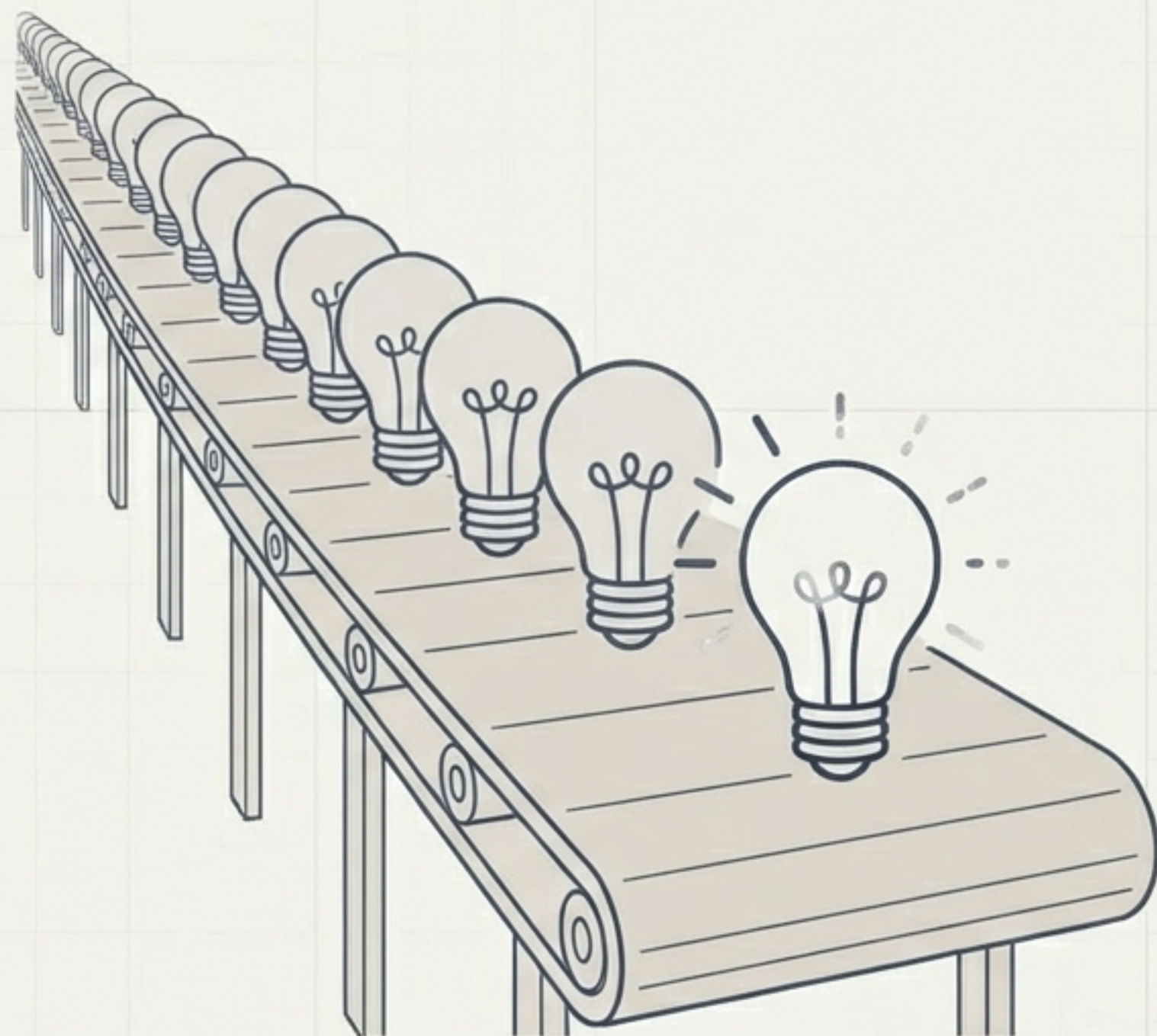
AI時代の勝敗は、  
技術を最も早く「生み出す」のではなく、  
最も早く「法的に押さえる」ことで決まる。



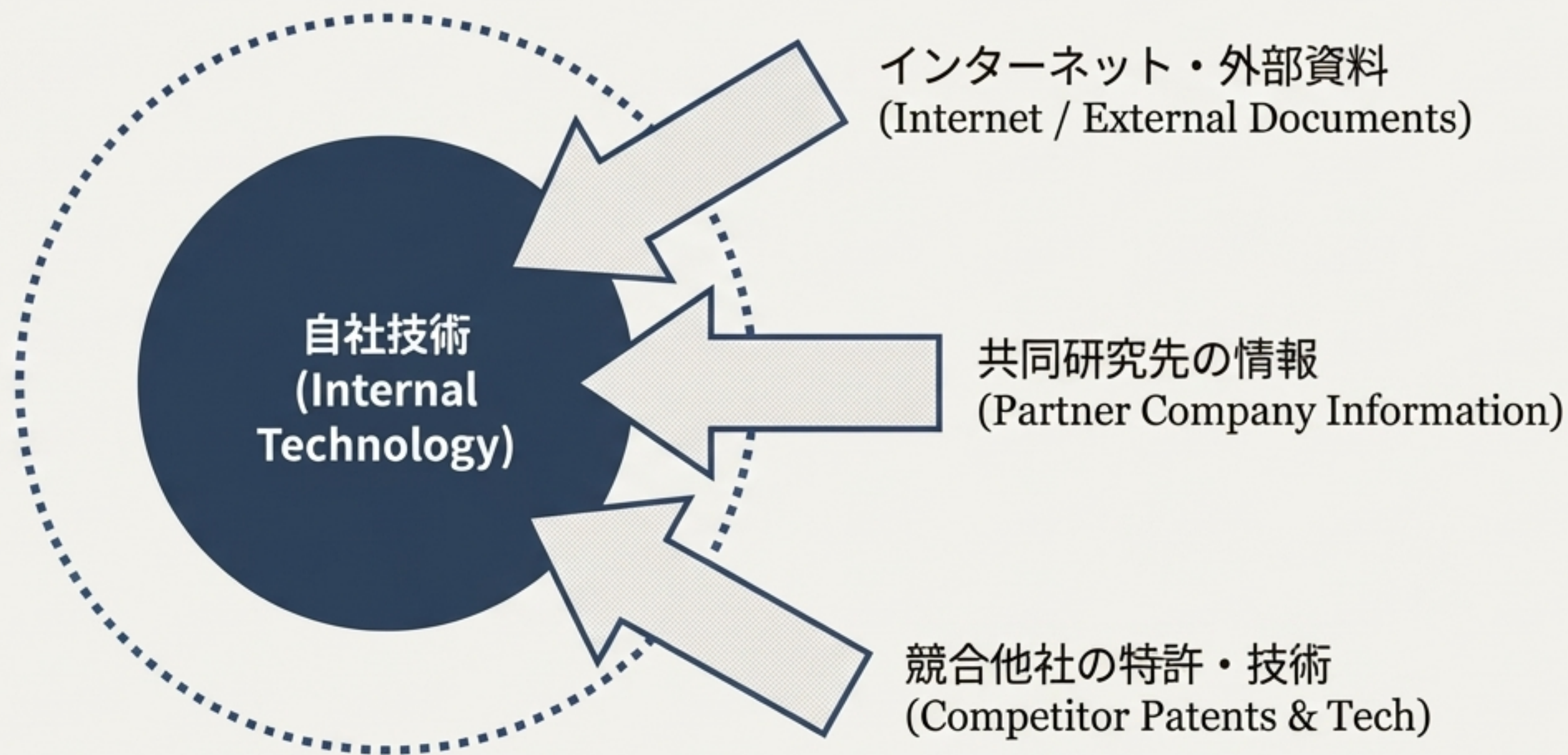
# AIによる第一の破壊：発明のコモディティ化

- 生成AIは、膨大な技術情報から発明の代替案や改良案を瞬時に、かつ大量に生成する。
- その結果、発明のスピードと量は飛躍的に向上し、「独創的な発明」そのものの希少価値が低下。

**Key Insight:** 各社が同時多発的に類似のアイデアを着想する可能性が高まり、「発明の速さ」だけでは優位性を保てない。



## 第二の破壊：技術情報における「境界の崩壊」



AIの活用は、意図せず外部情報を内部の検討プロセスに混入させ、自社技術と他社技術の境界線を曖昧にする。誰が、いつ、どの情報を参照したかの追跡は極めて困難になる。

# 境界崩壊がもたらす致命的リスク：「技術コンタミネーション」



## 技術コンタミネーション（技術的汚染）

自社の技術情報と他社由来の技術情報が混在し、境界が曖昧となり区別できなくなる状態。



**特許出願の拒絶**  
(Patent Rejection):  
発明の新規性・進歩性が否定される。



**共同発明者としての権利主張**  
(Co-inventor Claims):  
権利の一部または全部を失う。



**機密情報の不正利用** (Misuse of  
Confidential Information):  
損害賠償請求や刑事罰に発展する。



**営業秘密の喪失**  
(Loss of Trade Secrets):  
自社のコア技術が流出・一般化する。

# 新時代の競争優位を築く「権利化力」

## 権利化力

発明を法的に有効な権利として成立させるための、包括的な「技術管理能力」。

“Right-acquisition Power”: A comprehensive “technology governance capability” for establishing an invention as a legally valid right.

### 求められる5つの能力

1



発明の起源を  
明確にできるか

2



外部情報との混入が  
管理されているか

3



発明の根拠資料を  
説明できるか

4



境界を越えた  
情報利用がないと  
証明できるか

5



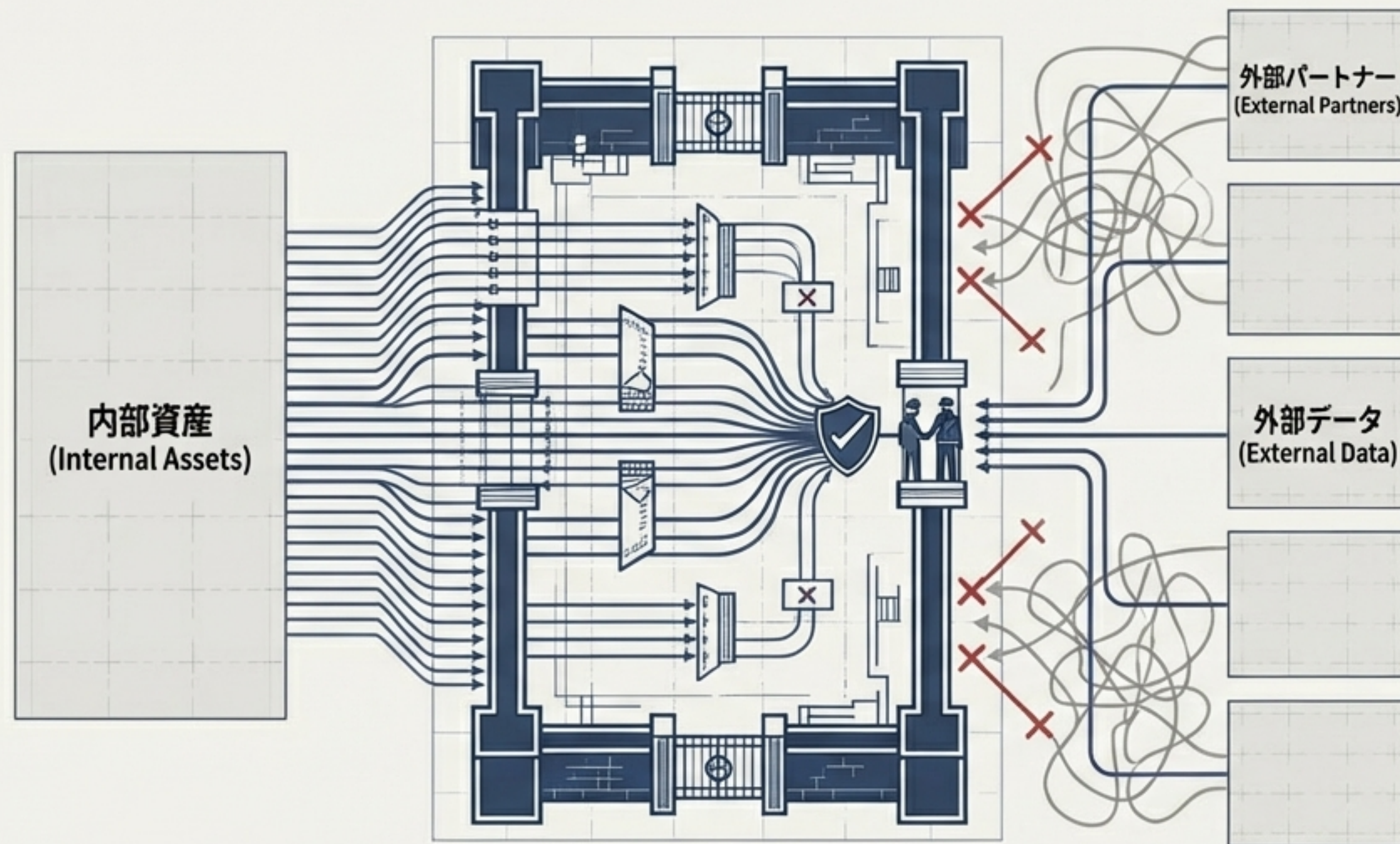
法的に有効な形で  
素早く権利化  
できるか

# 「権利化力」の基盤は、技術情報の「聖域」を作ることにある

The Foundation of 'Right-acquisition Power' Lies in Creating a 'Sanctuary' for Technical Information

## The Solution: VDR (バーチャル・データルーム)

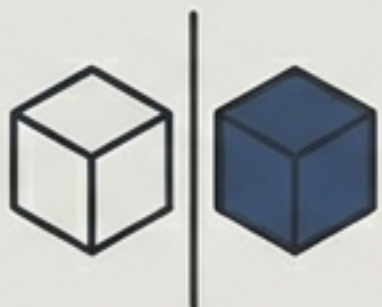
- 本来はM&A等で用いられる「外部共有専用クラウド」。
- AI時代の発明環境において、VDRは技術情報の流出入を厳密に制御し、発明の純度を保つ「統治インフラ」として機能する。



VDR : The Sanctuary

# VDRが「汚染のない証跡」を担保する4つのメカニズム

The 4 Mechanisms by which a VDR Guarantees a 'Clean Audit Trail'



## 1. 分離 (Isolation)

外部資料と内部資料を物理的に分離保管。AIが参照すべきでない外部情報を誤って学習するリスクを構造的に排除。

対応する課題 技術コンタミネーションの根本原因を断つ。



## 2. 制御 (Control)

ユーザー毎に閲覧・ダウンロード・印刷権限を詳細設定。許可なき資料の社内持ち込みや転用を防止。

対応する課題 境界を越える不正な情報移動を防ぐ。



## 3. 証跡 (Audit Trail)

「誰が、いつ、どの資料を閲覧したか」全ての操作履歴を完全自動記録。発明のクリーンな出自を客観的証拠で証明可能に。

対応する課題 発明の権利主張に必要な根拠を提供する。



## 4. 境界固定 (Boundary Fixation)

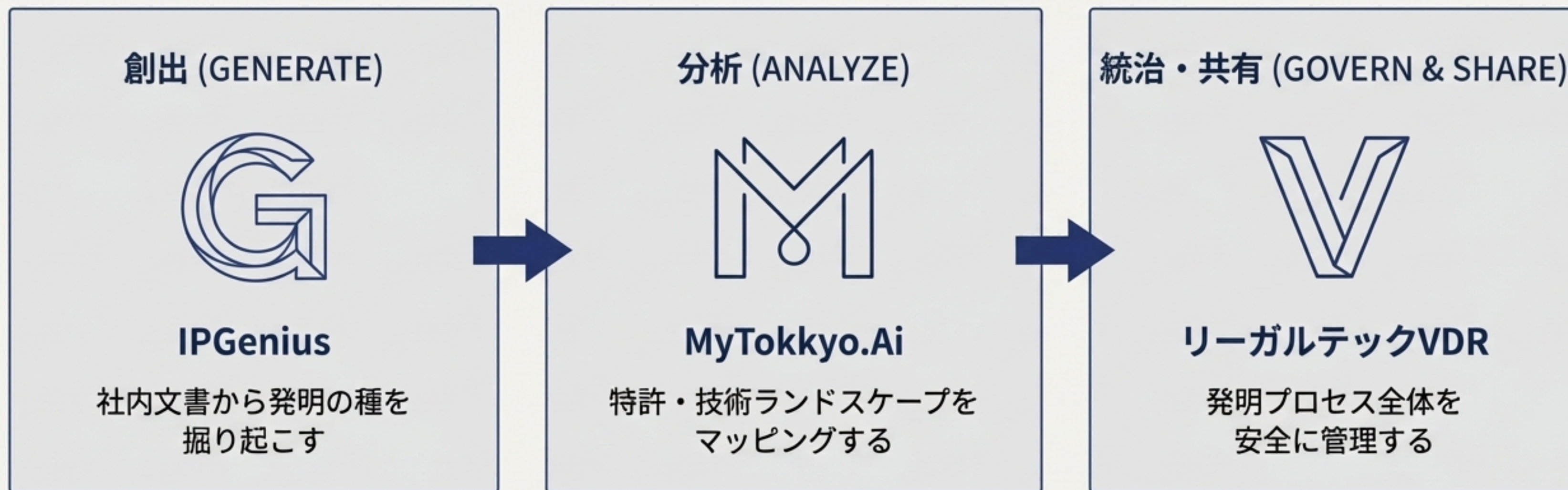
共同研究先など、関係者ごとにアクセス領域を限定。コラボレーションを安全に推進する標準化レイヤーとして機能。

対応する課題 外部連携の増加に伴う境界崩壊リスクを管理する。

# 実践への道筋：無形資産を創出し続ける「AI発明工場」

The Path to Practice: The 'AI Invention Factory' for Continuously Creating Intangible Assets

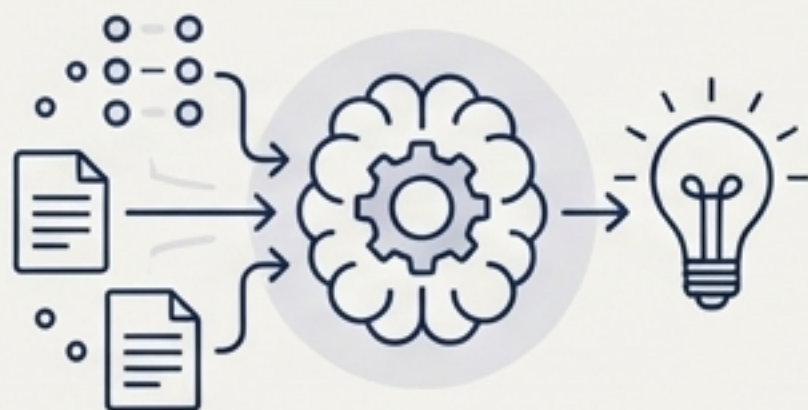
企業の技術情報から知財（無形資産）を継続的に生み出すための統合ソリューション。



# 発明の創出から権利化までを加速する3つのエンジン

Three Engines that Accelerate the Process from Invention Creation to Rights Acquisition

## IPGenius (発明創出)



社内に眠る研究ノートや技術メモから、発明の核心を自動抽出・構造化。埋もれたアイデアの特許化を促進し、知財ポートフォリオを拡充する。

## MyTokkyo.Ai (特許・技術分析)



創出された発明を世界の特許DBと比較分析。競合との差別化点や「ホワイトスペース（未特許領域）」を特定し、知財戦略の精度を高める。

## リーガルテックVDR (統治・共有基盤)



発明の検討から審査、出願に至る全プロセスをセキュアな環境で実行。機密情報を保護し、後日証明可能な証跡を確保する。

# 「権利化力」の強化がもたらす事業上の成果

Business Outcomes Delivered by Strengthening 'Right-acquisition Power'

- ✓ 発明発掘の効率化：研究ノートからの自動抽出で、発明の見逃しを防止し知財担当者の負担を軽減。
- ✓ 戦略策定の迅速化：アイデア段階で特許状況を把握し、開発リソースを有望な領域に集中。
- ✓ 未開拓領域の発見：他社が未着手の「ホワイトスペース」を可視化し、新たな研究開発テーマを策定。
- ✓ 意思決定の精度向上：発明提案から事業化判断までのリードタイムを短縮し、リスクを低減。

# 競争優位の源泉は「創出力」から「統治力」へ

The Source of Competitive Advantage is Shifting from the "Power to Create" to the "Power to Govern"

BEFORE (発明力)



資産は「アイデアそのもの」



AFTER (権利化力)



資産は「アイデアの純粋性と権利の証明可能性」

「AI時代の特許の本質は、発明そのものの価値よりも、  
それが純粋に自社のものであると証明できるかにある」

**AI時代、真の持続的優位性は、  
技術を最初に「発明する力」ではなく、  
その純度と権利を「証明する力」から生まれる。**

**貴社の競争優位を支える「堀」は、昨日の世界のために築かれていませんか？**